

## 第 25 回ショパン国際ピアノコンクール in ASIA 最終審査(ホール審査) 総評 プロフェッショナル部門 2 次審査

### ●審査員 A

この部門は間違いなくこのコンクールの中で最も難しく、参加者には非常に高度なものが求められます。3 日の間にソナタと協奏曲の両方を演奏することは、どんなピアニストにとってもチャレンジです。だからこそ、プロフェッショナルという部門名が最もふさわしいと思います。

皆さんお疲れさまでした。大変なコンクールだったと思いますが、ほとんどの方が見事に通過されました。数行ですべての見解を述べることは難しいので、そして他の部門とも共通した課題があるので、興味のある方は是非私の他の部門へのコメントも参照してください。ここでは、一つの点に注目してみたいと思います。

ソロの作品と協奏曲では、表現においてどのような違いがあるでしょうか？

ブリランテな若々しい作品とショパンの壮年期のソナタ形式、それもソナタ作品 58 のような晩年のソナタとの解釈の違いは何でしょうか？

答えは人によって少しずつ異なるでしょう。しかし何かしらの違いがあるはずで…もし違いが見つからなければ、何かが欠けているのかもしれませんが…

これらの問い、そしてその他の問いに対する答えを探し求める時間が、あなたにとって素晴らしいものになることを祈っています。

### ●審査員 B

素晴らしい演奏をありがとうございました！

以下について、更に心がけてみてください。

コンサートホールでの音の出し方

レガートの質

より色彩豊かな演奏

感情表現

P と pp、f と ff の違いに注意する

ニュアンスのあるペダリング

各声部をバランスよく際立たせる

### ●審査員 C

コンテスタントの意欲、想いが伝わってきました。不安なことが多い世の中ですが、音楽があることの大切さを感謝しつつ聴かせていただきました。このコンクールを通じて成長された皆さまが、素晴らしい音楽を世界に届けていただけることを願っております。

●審査員 D

すべての出場者が粒揃いで、聴きごたえのある内容でした。皆がかなり弾けていた半面、なかなか個性の強い出場者もあり、コンクールという場でも自己の個性を大胆に前面に押し出そうという姿勢は非常に強く印象に残りました。本日の演奏に接する限り、ファイナルが相当レベルの高い出場者になることが予想されます。本コンクール全体のレベルが上がっていると感じ、満足感に浸ることができました。

●審査員 E

2次審査（ソナタ）と最終審査（コンチェルト）の日程が近く、分量的に大変だったかと思いますが、両方をきちんと準備されていた方とそうでない方で評価が分かれたように思います。暗譜が飛んでしまった方が多かったのが残念ですが、コンチェルトは一人だけで対処できることではないので、いかなる場合でも大丈夫なように周到に準備すべきです。演奏そのものはレベルが高くよかったと思います。

●審査員 F

ライブ及び動画審査（海外からの参加者含む）で選ばれた10名（1名欠席）の演奏を聞きましたが、皆様それぞれ個性的な演奏もあって面白く聞けました。中には緊張のあまり、破綻をきたした方もおり残念に思いました。ソナタとコンチェルトを弾きこなすことは容易なことではありません。特にソナタは2曲共にショパンの作品の中でも難しく、楽譜を細部に渡って深く読み取って表現して頂きたいと思いました。またホールの響きをよく聞いてコントロールをすることも大切で、音色に対する意識を更に充実することが望まれます。